

15

儒学の最高権威

佐藤一斎

岩村藩出身の儒学者。西郷隆盛にも大きな影響を与えた著書「言志四録」は、一斎が後半生に書いた語録。指導者のためのバイブルと呼ばれ「重職心得箇条」とともに現代まで長く読み継がれている。1772（安永元）年、岩村藩士の次男として生まれ、林述斎から儒学を学んだ。1793（寛政5）年、昌平坂学問所に入門し、1805（文化2）年には塾長に昇進。その後は儒学の最高権威としてあがめられた。門下生は3,000人といわれ、佐久間象山、渡辺崋山ら幕末に活躍した人材たちも輩出。小泉純一郎元総理が衆議院で「言志四録」について触れ、知名度が上がった。1859（安政6）年10月19日、86歳で没。



佐藤一斎

ひとくちメモ

- NPO法人いわむら一斎塾が、学習会や講座など一斎の教えを広める活動をしている。また同法人は、2006（平成18）年に「言志四録」を子どもでも分かるように解説した「おじいちゃんとおく」を発行し、市内小中学生に配布した。

関連項目

- ・知新館（P10）・林述斎（P11）
- ・岩村歴史資料館（P24）

16

昌平坂学問所の総長

林述斎

岩村藩出身の儒学者で、佐藤一斎の師、幕府昌平坂学問所の総長。1768（明和5）年、岩村藩主松平乗蘊の三男として出生。儒学者の渋井太室らに師事。1793（寛政5）年、林信敬の養子となって林家を継ぎ、幕府の文書行政の中核として幕政に関与する。寛政の三博士と呼ばれる柴野栗山・古賀精里・尾藤二洲らと儒学の教学の刷新にも力を尽くし、昌平坂学問所の幕府直轄化を推進した（寛政の改革）。また、朱子学を基礎としつつ、中国清朝の考証学に関心を示し、「寛政重修諸家譜」「徳川実紀」「朝野旧聞哀藁」「新編武蔵風土記稿」など幕府の編さん事業を主導した。和漢の詩才に優れ、歌集「家園漫吟」などがある。1841（天保12）年8月30日、73歳で没。



林述斎

ひとくちメモ

- 述斎が養子となった林家は林羅山を祖とする儒学者・朱子学者の家系。佐藤一斎の父が述斎の烏帽子親（元服する男子に烏帽子名をつける人）であったことから、4歳年下の一斎と親交があり、儒学を共に学んだ。

関連項目

- ・知新館（P10）
- ・佐藤一斎（P11）

17

岩村電気軌道を開通

あさ み よ いち え もん

浅見与一右衛門

岩村町で生まれ、岩村電気軌道を開通させた大庄屋。旧家浅見家の9代目として1843(天保14)年に生まれる。岐阜県議会議長や衆議院議員を歴任。明治時代の交通形態の変化で衰退する岩村城下町を復興するため、私財を投げ打ち1906(明治39)年、岩村・大井間に全国で15番目の電気鉄道を開通させた。工事は旧小沢街道(一部現阿木川ダム湖底)の溪谷約10^{キロ}などの難工事の連続であったといわれている。1924(大正13)年、81歳で没。

三男浅見与七は、東京大学を卒業後、同大学農学部教授、名誉教授を務め、三好学に続いて東大附属植物園園長となった。



浅見与一右衛門

● ひとくちメモ

- 浅見翁の功績をたたえ、岩村城山城址公園に銅像、大井町中央通りには顕彰碑が建てられている。
- また、浅見邸は、岩村本通りに現存する。

● 関連項目

- 岩村電気軌道 (P9) ・ 三好学 (P13)
- 岩村本通り (P48)

18

日本洋画の父

やま もと ほう すい

山本芳翠

1850(嘉永3)年7月、明智町で生まれた洋画家。伊藤博文などの肖像画が著名で、日本洋画の父と呼ばれる。幼少から絵が好きで、寺子屋安住寺で象先和尚に学んだ。15歳のとき北斎漫画を手に入れて感銘し、絵の道を志した。1878(明治11)年、パリ万国博覧会を機にフランスに留学、絵画技法を学んだ。1887(明治20)年に帰国し、版画家合田清とともに画塾「生巧館」を主宰。1894(明治27)年に黒田清輝がフランスから帰国すると、黒田が結成した白馬会に参加した。代表作に「裸婦」(1880年ころ)、「浦島図」(1895年)がある。アカデミックな画風で、フランスで本格的に習得した画技を黒田に先立って日本に伝え、多くの洋画家を育てた功績は大きい。1906(明治39)年、56歳で没。



山本芳翠

● ひとくちメモ

- 山本芳翠顕彰会は、明知鉄道沿線の野志駅近くにある生家の前に、案内看板を設置。2009(平成21)年10月16日、除幕式が行われた。また2010(平成22)年は、山本芳翠生誕160年で、各種イベントが実施されている。

● 関連項目

- 日本大正村 (P50)

19

女子教育の先覚者

しも だ うた こ
下田歌子

岩村藩出身の教育家・歌人で、女子教育の先覚者。実践女子学園を創設。1854（安政元）年9月30日、代々学者の家に生まれた。名は平尾鉦^{ひらおせき}。4歳で和歌を作り、6歳で俳句、漢詩をこなす。17歳で上京して父の元に身を寄せ、翌年宮内省の女官見習いになる。和歌に優れ、^{しょうけんこうたいごう}昭憲皇太后に「歌子」の名を賜った。1879（明治12）年、下田猛雄と結婚したが、夫が病気がちで不幸な結婚生活を送る。1882（明治15）年東京・麹町^{こうじょう}に桃夭女塾を開設、源氏物語と和歌を指導する。1885（明治18）年、華族女子校開設に伴い、幹事兼教授に任じられる。1899（明治32）年、実践女学校（現在の実践女子大学）と女子工芸学校を創立。婦人運動にも貢献した。1936（昭和11）年10月8日、83歳で没。

2010（平成22）年11月27日、下田歌子が恵那市出身であることの縁により、実践女子学園と恵那市は、連携交流協定を締結した。



下田歌子

ひとくちメモ

- 岩村城山城址公園内には、歌子の勉強部屋を復元した勉学所、銅像、顕彰碑がある。顕彰碑は、歌子が亡くなる1年前に実践女学校関係者の善意によって建立された。実践女学校の校庭で刻まれ、鉄道で運ばれた。

関連項目

・渡辺美佐子（P15）

20

サクラ・ショウブ研究の世界的権威

み よし まなぶ
三好学

岩村藩出身の植物学者。わが国の植物学の基礎を築いたサクラとショウブ研究の世界第一人者。「日本植物景觀」など多くの著書がある。岩村藩・江戸藩邸で1861（文久元）年に生まれ、幼年を岩村で過ごす。わずか18歳で、小学校校長（瑞浪市立土岐小学校の前身の^{こうてき}光通小学校）に就任。その後、東京大学で植物学の研究を続け、ドイツ留学から帰国後35歳の若さで東大教授に就任した。東大在学中に発表した研究論文は100編に及び、その著書も100冊といわれる。一生の事業として天然記念物の保護にも力を入れた。1939（昭和14）年、78歳で没。岩村城山城址公園内には、三好博士にちなんだ「菖蒲園^{しょうぶえん}」がある。ここには、13種類ほどのハナショウブが約1万本植えられており、毎年6月下旬ころに開花する。



三好学

ひとくちメモ

- 三好博士の功績は、植物学だけではない。地理学者の辻村太郎が、1937（昭和12）年に著した「景觀地理学講話」の中で、「景觀」という言葉を生み出した人物として紹介している。2011（平成23）年には、三好学生誕150年を迎え、これを記念した各種イベントが開催される。

関連項目

・浅見与一右衛門（P12）
・ハナノキ（P34）

ふく ざわ もも すけ
福沢桃介

1924（大正13）年、木曽川に日本初のダム式発電所大井発電所を建設し、恵那峡を誕生させた実業家、政治家。「日本の電力王」、「天才的経営者」ともいわれた。1868（明治元）年埼玉県生まれ。慶應義塾に在学中、福沢諭吉の養子になり、後に諭吉の次女、房と結婚した。木曽川の水利権を獲得し、大井発電所のほか、八百津発電所や落合発電所などを建築し、また矢作水力（現中部電力）、大同電力（現関西電力）などの設立を次々に行った。日本初の女優川上貞奴とともに大井ダムの建設に力を注いだ物語は、NHK大河ドラマ「春の波濤」として1985（昭和60）年に放映。1938（昭和13）年2月15日、69歳で没。



福沢桃介

ひとくちメモ

- 大井ダム工事は難工事。犠牲者が出て人夫の士気が下がったある日、桃介は、両岸に渡したワイヤーからロープ1本でつるした籠に乗り、千尋の谷底へ降りた。これに貞奴も同行したことから、現場の士気が回復したというエピソードが伝わっている。

関連項目

- ・岩村電気軌道（P9）・恵那シクラメン（P30）
- ・大井ダム（P42）・恵那峡（P47）

なか がわ
中川とも

恵那市を第二の故郷として活躍した画家。歌舞伎絵を好んで描いた。1890（明治23）年、中津川市生まれ。1908（明治41）年、中津川尋常高等小学校の訓導となっところから、画業を志す。35歳で岸田劉生の絵画に出会い、影響を受ける。41歳で大垣高等女学校を退職、画業に専念。1951（昭和26）年から1965年まで恵那高等学校の美術科講師を務め、多くの教え子に絵を描く本当の楽しみを伝えた。この間、画業の中心が文楽や歌舞伎を題材としたものになる。恵那高等学校退職後、その画業と生きざまがテレビや新聞などに数多く取り上げられる。1982（昭和57）年、92歳で没。



中川とも

ひとくちメモ

- 23年間で恵那市で過ごした「とも先生」の思い出を温める年輩者は多い。恵那高等学校の美術の授業では「絵は1年間で1枚描けばよい」といわれた。
- 浄瑠璃を聞かせてもらった。ニックネームは、「ライオン」。ボサボサの髪が由来だったそう。

関連項目

- ・地歌舞伎（P19）

23

地歌舞伎振興に60年

まつもと だんしょう
松本団升

地歌舞伎の再興と伝承に60年間取り組んだ地芝居振付師。3歳で先代松本団升一座の子役として初舞台を踏む。1947（昭和22）年からは父親の郷里の恵那地方で、振付師として活動を開始。日本舞踊「松扇会」主宰と並行して、県内外で地歌舞伎の振り付け指導に当たった。また、東濃を中心に県内の保存会を指導し、県内の地歌舞伎再興に力を注いだ。途絶えた外題^{げだい}の復活や記録にも取り組み、振り付けた幕数は2,000を超える。1995（平成7）年に旧山岡町名誉町民となり、1997（平成9）年には岐阜県重要無形文化財に指定され、2007（平成19）年旭^{きよく}日^{じつ}双^{そう}光^{こう}章^{しょう}に輝いた。2003（平成15）年に体調を崩し、次女の松本団女^{だんじょ}に跡目を譲り、一線を退いた。2007（平成19）年、85歳で没。



松本団升

ひとくちメモ

- 師匠（振付師）はまさに地歌舞伎の生き字引で、
- 師匠なくして地歌舞伎はあり得ないほどであった。地
- 歌舞伎のセリフや所作は口伝によって受け継がれて
- いる。

関連
項目

・地歌舞伎（P19）

24

現代版女城主

わた なべ み さ こ
渡辺美佐子

岩村城の現代版女城主として町のPR役を担っている女優。1932（昭和7）年、東京都生まれ。実践女子学園高等学校卒業後、俳優座養成所第3期生となる。「家庭教師」で初舞台。1953（昭和28）年、「ひめゆりの塔」で映画デビュー。映画・舞台・テレビと総合的に活躍している。中でも一人芝居「化粧」は、1982（昭和57）年の初演以来600回以上上演されている彼女のライフワーク。母校の創立者・下田歌子の故郷が岩村町であったよしみで、1987（昭和62）年から岩村城の女城主に。就任式は5月2日、女城主「登城の儀式」と銘打ち盛大に挙行了た。



渡辺美佐子

ひとくちメモ

- 女城主とは、戦国動乱の時代に岩村城の攻防の
- 中心人物であった遠山氏最後の城主景任夫人のこ
- とで、織田信長の叔母に当たる。小野稔作の歴史
- 小説「女城主」では主人公お直の方として広く知ら
- れている。

関連
項目

・岩村城跡（P6）・下田歌子（P13）
・富田地区の農村景観（P48）

25

日本大正村の村長

つかさ よう こ
司葉子

日本大正村二代目村長で、映画「青い山脈」にも出演した恵那市ゆかりの女優。1934（昭和9）年、鳥取県生まれ。1954（昭和29）年、「家庭よみうり」の表紙を飾ったのがきっかけでスカウトされ、東宝と契約、映画「君死に^{たま}給うことなかれ」でデビュー。1966（昭和41）年、映画「紀ノ川」で第40回キネマ旬報賞主演女優賞、第9回ブルーリボン主演女優賞など、その年の演技賞を独占した。夫は、元衆議院議員の相沢英之^{あいざわひでゆき}。1957（昭和32）年、恵那市でロケされた映画「青い山脈」では、島崎先生役で出演した。また、故高峰三枝子^{たかみね み え こ}の推薦を受け、1999（平成11）年から大正村村長を務めている。



司葉子

ひとくちメモ

- 2011（平成23）年の「大正百年祭」では、司
- 村長が明智町内の大正村再整備の構想づくりの先
- 頭に立ってアイデアを出し、実現に向けて地元の皆
- さんとともに精力的に活動されている。

関連
項目

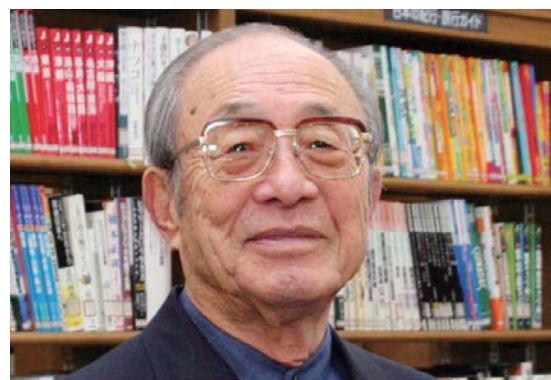
- ・光秀まつり（P23）・日本大正村（P50）
- ・映画「青い山脈」（P52）

26

名誉市民の第1号

い どう よし み
伊藤喜美

恵那市名誉市民第1号。(株)バロー創業者で、現相談役名誉会長。1922（大正11）年、大井町生まれ。(株)主婦の店を創業し、卓越した経営手腕で現在のバローに育て上げた。1992（平成4）年、恵那市国際交流協会会長、1995（平成7）年、恵那商工会議所会頭、現名誉会頭。1999（平成11）年には私財の寄付により(財)伊藤青少年育成奨学会を設立し、奨学金支援や部活動助成など青少年の健全育成に寄与。2007（平成19）年には読書に対する自身の思いから、10億円の私財を投じて市中央図書館の建設と、蔵書2万3,000冊を市に寄贈、多くの市民に親しまれている。同年、名誉市民第1号に選ばれた。



伊藤喜美

ひとくちメモ

- (財)伊藤青少年育成奨学会は、岐阜県出身ま
- たは県内在住大学生への奨学金の支給、県下高
- 校の運動部やスポーツイベントに対する資金援助、
- 国際交流事業への援助などの活動を2000（平成
- 12）年から続けている。

関連
項目

27

フジテレビ系列で放映

かつ かわ かつ し
勝川克志

山岡町出身の漫画家。1950（昭和25）年生まれ。作品は、1992（平成4）年フジテレビで放映された「まぼちゃん旅行記」など。18歳で上京、デザイン会社、アシスタントを経て、1970（昭和45）年ごろ、「まんが王」（秋田書店）に四コマ漫画が数本掲載。1978（昭和53）年、「わたしのお兄ちゃん」（ヤングコミック・少年画報社）で本格デビュー。漫画同人誌「^{ぼくら}跋折羅」の創刊メンバーでもある。また、ミニコミ紙「のんき新聞」を発行している。丸い描線によるとてもデフォルメされた懐かしい絵で、夢のある話や、ノスタルジックな作品を描く。作品は非常に少なく、絶版プレミア本となっているものが多い。その代わり表紙・挿絵やイラストの需要が多く、今後の活躍が期待される。



勝川克志

● **ひとくちメモ**

- 2007（平成19）年に発刊された「庄太」（さんこう社）は、昭和30年代の山岡町が舞台。山岡のいろんな場所が物語に登場する。しかも、せりふは
- 全て恵那弁で、懐かしさいっぱいだ。実家は、山岡町馬場山田にある電器屋さん。

関連
項目

28

2005年賞金ランキング2位

いま の やす はる
今野康晴

長島町出身のプロゴルファー。12歳からゴルフを始める。日本大学在学中の1995（平成7）年に、日本オープン選手権でベスト・アマチュアに入った。翌年、プロゴルファーテスト合格、1997（平成9）年「マニラ・オープン」でプロ初優勝。1999（平成11）年の「中日クラウンズ」で日本ツアー初優勝を挙げ、翌年には「ミズノオープン」で優勝した。2005（平成17）年は「サントリーオープンゴルフトーナメント」で3年ぶりの日本ツアー優勝を果たす。これで賞金ランキングを一気に上げ、年間最終戦の「ゴルフ日本シリーズ」でも初優勝。自己最高の賞金ランキング2位でシーズンを終えた。

最近では、2009（平成21）年の「三井住友VISA太平洋マスターズ」で優勝している。



今野康晴

● **ひとくちメモ**

- 実家は、長島町中野乗越にあるうどん屋さん。玄
- 関には数多くのトロフィーや、写真が展示してある。

関連
項目